CONSERVATION VOLUNTEERS Vol. 6

発行：特定非営利活動法人日本環境保全ボランティアネットワーク（略称：ＪＣＶＮ）

巻頭言＿＿ボランティア活動の理念と効果 p1

連載＿＿＿ボランティア、ケガと弁当は自分持ち？ p3
人材は「育成」か「成育」か？ p3
環境保全ボランティア活動と若者の自立支援 p4

報告＿＿＿リーダートレーニング研究会実施報告①『リーダーシップ』 p5
リーダートレーニング研究会実施報告②『チームビルディング』 p5

お知らせ＿リーダートレーニング研究会・合宿研修のご案内 p6
JCVNロゴ案募集 p7
イベント・ボランティア情報 p8

巻頭言「ボランティア活動の理念と効果」

重松敏則（JCVN 理事長）

ボランティア活動は何のためにするのでしょうか。他人への奉仕や多様な環境保全活動に携わるわけですが、目的はあくまでも自分自身のためです。ボランティア活動が自分の生活や人生を豊かにし、社会や環境に対する視野・認識を深め、年齢や履歴、職階等を越えてコミュニケーションや連帯感が得られるからです。

写時間を忘れ、柴刈りに熱中する参加者。１本伐るごとに明るくなり、成果を確認する。

ボランティア活動にかかわるきっかけは、社会的義務感や知人に誘われて半ばお義理で参加、あるいは、時間に余裕ができたので好奇心で一度体験しようなど、人それぞれでしょう。しかし、一度体験してみると、意外に楽しく、いい汗をかいて充実感に満たされるのです。日ごろ無口で人見知りする人も、活動作業を通して心が開放的になり、未知の人との会話やコミュニケーションがごく自然と進み、和むのです。今まで知らなかった

新しい世界が開け、なんとはなしに自分の人生が新たな展開をするような気がしてくるから不思議です。ですから、多くの人が、すっかりはまりこみ、リピーターとなり、参加・活動を継続するうちに、やがて知識や経験・ノウハウ・技術などを身につけたキーパーソンとなり、ついにはリーダーにもなるのです。

保全作業を通して、協調心や連帯感、先生との信頼感が得られる。

かつて私が研究調査の一環として、市民参加の里山管理（柴刈り、間伐など）を企画し、募集したところ予想以上の人が応募し、しかも作業後のアンケートでは、参加者の多くが「楽しくて、あまりしんどいとか、つらいと思わなかった(44%)」、または、「楽しかったけれども、同時にしんどいなとも思った（55%）」で、意外にも「楽しさよりも、しんどさに閉口した」皆無でした。そうして、「もう、次からは参加したくない」も皆無だったのです。

もちろん、やる気や好奇心のある人が応募しているわけですが、それにしても予測を越える好評が得られました。

世の中にはそういうボランティア活動の世界を知らないどころか、3K（きつい、暗い、厳しい）と思い込み、「自分はパスしたい」、あるいは「自分には関係のないこと」と決め込んでいる人が珍しくありません。いわゆる、「食わず嫌い」ですが、私は「だまされたつもりで、一度体験すればいいのに」と残念でなりません。英国での全国的な環境保全ボランティア団体であるBTCV (British Trust for Conservation Volunteers、昨年から、より身近さをアピールするために TCV に改名）のスタッフも、「いかに体験してもらうかが鍵で、いろいろな仕組みや活動メニューを工夫しています」と言っていましたが、私もその通りだと思います。一度参加すると、次回からは参加費を払ってでも参加したいと思うようになるのです。英国では、ボランティア活動は自分自身のためにすることが共通認識となっており、参加費を徴収することもごく当たり前になっています。

郷愁に浸り、柴刈りを黙々と進めるお年寄り足腰が鍛えられ、新たな知人が見つかる。

JCVNは、BTCV(TCV) のように、「いつでも」、「誰でも」、「どこでも参加できる仕組みを日本全国にひろめることを目標に、勝手連で設立し、まずその実現に必要なリーダー養成を活動の中心に進めています。活動は緒についたばかりで、今後多くの皆様のご支援とご参加を期待しています。

次回は「ボランティア活動の態様あれこれ」のテーマで執筆予定です。

作業に思わず会話が弾み、家族のきずなや一体感が醸成される。

参考文献

1）重松敏則(1990)：里山林の保全・管理に関する市民の参加意欲について、農村計画学会誌 9（1)、pp.6－22

2）重松敏則(1991)：市民による里山の保全・管理、信山社サイテック、全74pp.

連載

JCVN理事による経験とノウハウの詰まった連載コラム！

■ボランティア、けがと弁当は自分持ち？（４）

小森 耕太（JCVN理事／山村塾事務局長）

皆さんは現場の作業中におしゃべりしていますか？

長年、活動に携わる中で、安全で楽しい作業を行うためには、作業中のおしゃべりや声かけがとても大切だなぁと考えています。もちろん、作業や進行に支障が出るほどに熱中するのはどうかと思いますが、適度なコミュニケーションは、作業方法（技術）や進捗度合の確認、疲労度の把握などにとても有効です。作業に熱中しすぎていると、実は作業方法が間違っていたり、周囲の人と連携が出来ていなかったり、初期の熱中症など体調の変化に気付いていなかったりするものです。

そういったときに、リーダーが「今日の天気は気持ちいいですね～」とか「〇〇さん、近頃は元気にしていました？」などと何気ない声かけをしてまわることで、ボランティアの体調や作業への理解度、満足度をそれとなく見てまわることが出来ます。ひょっとすると、「しゃべってばかりいないでリーダーも作業しろ！」と指摘されることもあるかもしれませんが、それは良い加減を計りながら・・・。

具体例として小森流のリーダースタイルを紹介します。例えば広葉樹植林地での下草刈り作業を１５名程度で行うとき、僕の腰にはカメラをぶら下げ、手には造林鎌を持ち、作業中のボランティア一人一人に声かけに行きます。写真を撮って、声をかけておしゃべりし、となりで一緒に草刈り作業を行いながら、またおしゃべり。それを５分くらいで済ませて、次の方のもとへ移動といった具合です。もしくは、３０名くらいの大人数のときや作業地の傾斜がきつく、移動が難しい場所などは、スキューバダイビングのバディシステム（二人組）も有効です。作業も移動も一緒にしてもらう。バディを作ることで、初心者は経験者からフォローしてもらえますし、経験者も作業への「のめり込み」を防ぐことができます。一日同じ人と一緒に作業することで、会話にも花が咲くことでしょう。

一見、作業効率が下がりそうなおしゃべりですが、楽しさの演出だけでなく、作業の質や安全性の確保のためにもぜひどうぞ。

■人材は「育成」か「成育」か（６）

平 由以子（JCVN理事／特定非営利活動法人循環生活研究所理事長）

教育農場での四季は、さまざまなプロセスの中で関わる団体の中での変化をもたらしています。

ＮＰＯとして体験型から年間通した栽培の菜園を運営をする中で、とくに震災以降、土に触れる活動、自給自足の技術習得などを目的に参加する人々が増えているように感じています。堆肥づくりから農までの取り組みは、公民館活動からサークル、幼保育園、小学校から大学へと広がりをみせています。性別や年齢を問わず、農に関わればある種の生活力の向上、さらには身近な人への恩恵など寄与することにつながるのではないかと実感しています。

近年、目覚ましい変化を実感するのはさまざまな問題を抱える若者（ひきこもり、非行など）です。一過性あるいはイベント的体験ではなく、種まきから年間通した活動、さらに出荷販売までを体験します。土づくり、播種、育苗、定植、栽培、除草、間引き、追肥を経て収穫に至る一連の取り組みに加え、私たちのプログラムでは、身近な循環型農業で安全な食を生産するための堆肥・有機

肥料・自然忌避剤づくりの項目が追加されています。

非行少年のグループの何人かは「家が農家だけど、手伝ったことない」と言いながら、畑に来てくれます。各団体は作物中心に動くことが要求されるので、雨の日も、雪の日も、灼熱の日照りの日も淡々と作業に取り組みます。もちろん皆勤賞の若者はごくわずかですが、2年目になるとある程度の基盤ができ役割を担う子どもたちが出て来ました。なんと、何人かは全体の代表者会議に出てくるようになりました。土や作物の力も大きいですが、ほとんどはこの活動により何かをつかんだ大人の熱意が若者に伝わっているのだと思います。

各団体間の取り組みはさまざまですが、運営力や菜園に対する優先順位の違いなどにより差があるので、農業の基本技術と堆肥化技術サポートのほか、運営のお手伝いもする場面もあります。予想外の効果が出たときの嬉しさは私たちの団体にも活気をもたらします。

地域で食べられるものを、地域に住む人の知恵に学びながら育て出荷に至るまで関わるということは、これからの農や生業としての農業のあり方を考えるうえでの重要なプロセスとなっていきます。少しずつですが、若者なりに食にかかわる感覚と、物差しを形成していくのではないかと期待しています。

■環境保全ボランティア活動と若者の自立支援（６）

～米国のConservation Corpsを例に。ソーシャルインクルージョンと環境保全の両立～

塚本 竜也（JCVN理事／特定非営利活動法人トチギ環境未来基地理事長）

米国にConservation Corps というプログラムがあります。半年から１年間の長期間、環境保全活動に取り組むプログラムで、18-25才の若者が年間30,000人以上参加しています。最初は素人ばかりでも継続して長期間環境保全活動に取り組むと、大きな成果がでます。Conservation Corps全体の2011年の実績の一例としては、

- **5,739,259エーカーの土地の環境を整備、再生。ニュージャージー州の大きさより大きい！**
- **95,337マイルのトレイルを建設、補修。地球をほぼ4周分。**
- **289,285人の地域のボランティアを活動に巻き込んだ！**

となっています。

その参加者は、多様です。少し古いデータですが、The Corps Networkの報告によると2007年の参加者の内訳は右表のようになっています。

Conservation Corpsは、社会的包摂や、就労困難者層のキャリア支援としてもいかされています。このような多様な若者と活動をしながら、し

参加者数	21,214人 （男性 59%　女性 41%）
年齢	18-25歳　平均年齢20歳
人種	コーカソイド(白色人種) 49% アフリカ系アメリカ人 25% ラテン系 18% ネイティブアメリカン 3% 多重人種 2% アジア系 2%
参加時の学歴	中学卒業 57% 高校卒業または同等の学歴 19% 大学中退 13% 大学卒業 11%
米国の定める貧困家庭からの参加者	64%
犯罪経験者	30%
養護施設にいた経験のある参加者	10%

っかりと環境保全の成果を出すことを両立するのがConservation Corpsのすごさです。プログラムの力です。日本もプログラムの力を強化し、社会貢献の成果の最大化を目指しながらその過程で若者が育っていくように目標の軸足を置き換えたほうが、結果として若者の育成にも良い成果があがるのではないかと考えています。

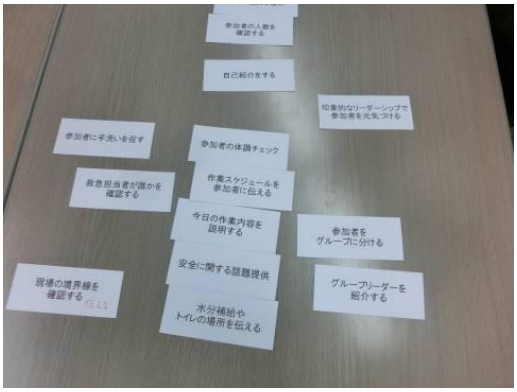
実施報告

リーダートレーニング研究会

■４月３０日開催「現場リーダー」

朝廣 和夫（JCVN 副理事長／九州大学芸術工学研究院　環境・遺産デザイン部門）

2013年4月30日にプロジェクトプランニングワークを用いた研究会を行いました。参加者は約20名弱、小森・朝廣・志賀で実施しました。内容は、１日の流れを構成する個々の「動き」を１枚1枚記載したカードを用い、4～5人組のグループに分かれ、活動の流れに沿ってカードを並べるというものです。
本ワークについて、参加者からは次のコメントをいただきました。



【カードワークによる学習成果】
- **リーダーが多数の観点を扱い、次のこと、１日のことを考えながら動くことを理解した。**
- **日頃の活動の振り返り。行動にもタイミングがあることへの理解。**
- **参加者が積極的に作業に関わり、プログラムを作り上げる達成感、一体感。**
- **個々のカードを並び終え、議論の中で全体像が見えてきた。具体的に理解が深まった。**

【カードワークの利点】
- **カードがあることで全員がワークに参加できる。**
- **活動計画の内容確認に有効。**

【カードの改善点】
- **１日に多数の活動があるが、机に並べると見にくい、置きにくい。**

- **カードにメリハリがあると目が疲れない。**
- **より実践的なワークと組み合わせると学びと楽しさが深まる。**
- **初心者には活動をシンプルに時系列でまとめたVTRかスライドがあると良い。**
- **トラブル関連が含まれると興味深い。**

ワーク後の議論では、「リーダーが多様な参加者をどうまとめるのか？」という話題が出ました。「参加者」は、「１）経験者：説明はほどほどにして早く十分作業したい」人と、「２）初心者：説明を詳しくしてほしい。」２タイプが混在します。本ワークでは、説明のタイミングや、リーダーのフォローや見守りの動きなど、「１日の動きの構成」で対応できる可能性が話題となりました。
さて、研究会の運営については、講師の準備不足や参加者への配慮、参加者同士の活動紹介の時間確保などについてもアンケートでご指摘いただきました。
本研究会は、会員同士がリーダーシップやトレーニング手法を考える交流の場として設けています。皆様の積極的な御参加を一同お待ちしております。

■６月１０日開催「チームビルディング」

浅田 真知子（JCVN事務局）

第３回のリーダートレーニング研究会では、「チームビルディング」をテーマにワーク・ディスカッションを行いました。参加者は14名、進行は志賀・小森が実施しました。

この日は、場の緊張をほぐす「アイスブレイク」や、チームワークを体感するための「チームゲーム」を全員で行い、ディスカッションをしました。ディスカッションでは、次のような意見が出ました。

＜アイスブレイクゲームのメリット＞
- うちとけて、笑顔になる。親しみがわく。
- 体がほぐれる。
- 話す相手ができる。
- 声を出せるようになる。
- 距離が縮まる。

＜アイスブレイクゲームのデメリット＞
- 打ち解けすぎて、進行や作業に支障が出る。
- 「早く作業をしたい人」のやる気をそぐ。
- 特定の人やグループだけと仲良くなる。
- 子どもの遊びみたいで好まない、受け入れられない人もいる。

＜実施する時のアイデア＞
- 何のためにやるのか理解しておく。
- アイスブレイクゲームは、あくまでもチームビルディングの一部である。
- 作業量をこなすことと参加者のよいコミュニケーションのどちらに重きを置くか？
- 準備体操、名札づくり、お茶を飲みながらの近況報告、休憩時間のふりかえりがよいアイスブレイクになることも。

今回、アイスブレイクゲームの実習をベースに進めたこともあり、アイスブレイクに関する質問や意見が多く、アイスブレイクの意義や効果的な活用方法を掘り下げられました。それを経て、「いかに信頼関係を結ぶか」ということが大切だというキーワードが出たことはとても良い成果でした。一方で「チームビルディング」の全体像に関しては議論が不足してしまいました。

一部の参加者も交えての振り返りでは、「リーダーシップ」や「チームビルディング」等の言葉の概念自体をディスカッションしても面白いのではという意見や、リーダーだけでなくメンバー全員でチームを作るための「メンバーシップ」のことも考えたいという意見をいただきました。

リーダートレーニング研究会は、JCVNがこれまで行ってきた人材育成活動の知見を洗練させ、講座をより良いものとしていくため、いつもは講師となるJCVNメンバーも皆さんと一緒に「協働で考える場」としていきたいと考えています。次回以降の案内は、「お知らせ」にて紹介しています。よりよいリーダー育成について、ともに考え、議論しましょう！

お知らせ

イベント・ボランティア情報

●JCVNリーダートレーニング研究会

これまで、「リーダーシップ」「現場リーダー」「チームビルディング」のテーマで開催したリーダートレーニング研究会。８月・９月には以下の内容でこれまで同様の座学を、１１月に合宿研修を開催します。事例やテキストをもとに、意見交換しながらリーダーについて学びを深めます。

「安全なボランティア作業を目指したい」「リーダーやリーダーシップについて考えたい」「次世代リーダーを育成したい」という方は是非ご参加ください！

なお、今回より参加費を改定いたしました。事業継続のため、ご理解・ご了承いただければ幸いです。みなさんのご参加をお待ちしています。

◇8/20 座学「災害ボランティアの運営」

里山保全活動のノウハウを活かし、九州北部豪雨における復興支援活動を進めてきた「山村塾」。活動の運営マニュアルや、一日の流れを事例に、リーダーの役割やグループマネジメント等への理解を深めます。

と　き 平成25年8月20日　18時半～20時半
進行役 朝廣和夫（JCVN副理事長）
小森耕太（JCVN理事）
会　場 福岡市NPO･ボランティア交流センター
（あすみん／福岡市中央区大名2-6-46）
参加費 （会員）無料　（非会員）1,000円

◇9/24 座学「リスクアセスメント」

安全で楽しい里山保全活動を行うために最も重要である安全管理について、その考え方や活動を想定したリスクアセスメント実習を通じ、学びを深めます。

と　き 平成25年9月24日　18時半～20時半
進行役 小森耕太（JCVN理事）
会　場 福岡市NPO･ボランティア交流センター
（あすみん／福岡市中央区大名2-6-46）
参加費 （会員）無料　（非会員）1,000円

◇11/2-4 合宿「里山保全･復興支援活動実習」

災害復興支援活動の視察･体験および雑木林の手入れ等の体験を通じてリーダーのあり方を学び、講師･参加者を交えた意見交換でその学びを深めていきます。

と　き 平成25年11月2日10時～4日15時
進行役 重松 敏則（JCVN理事長）
小森 耕太（JCVN理事）
塚本 竜也（JCVN理事）
会　場 笠原東交流センター「えがおの森」
（八女市黒木町大字笠原9836-1）
参加費 （会員）7,000円　（非会員）8,000円
※食事・宿泊費込み。

定　員 各回２０名程度
申込み TEL／FAX　092-215-3966
メール　jcvn@greencity-f.org
WEB　http://www.jcvn.net

●Facebook情報交流サイト開設！

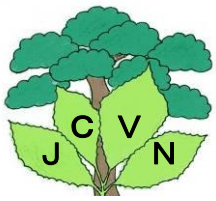
各団体が行うイベントや保全活動実施の参加者募集等の情報交換を行うフェイスブックページを作成しました。ページは完全公開（WEB検索でヒットし、フェイスブック利用者でなくても閲覧可能。）で、フェイスブック利用者は誰でもページへの投稿が可能です。各活動団体の情報発信に、ぜひ皆さんご利用ください。
投稿や「いいね！」で、サイトを盛り上げていただけるとうれしいです。

http://www.facebook.com/jcvn.net

●JCVNのロゴ案を募集します。

重松理事長、および会員の上原さんよりJCVNロゴのご提案がありました。これを機に、広く会員の皆さんからも、ロゴ案のアイデアや、賛否、ご意見を募ります。メール・ファックス等で事務局までお寄せください。

◎重松理事長案



まず、針葉樹のマツ(アカマツ・クロマツ・リュウキュウマツ)と広葉樹のコナラをアレンジしました。いずれもかつての里山の主要な構成木であり、薪炭林や農用林の役割を果たすとともに、多様な生き物の「よすが」ともなりました。クロマツ林は美しい白砂青松の浜辺や里海に欠かせないものですし、マツは能や狂言の舞台の背景に描かれるなど、里山の雑木林とともに日本人に親しまれ、遊びや原風景、伝統文化の形成とも大きく関わっています。JCVNは、これらの保全や復元、継承を目指しています。一方、8つのマツの枝葉と4つのコナラの葉は、多様なセクター（都市住民・青少年・農山漁村住民・ボランティア活動団体・学校・大学・民間企業・財団・医療福祉厚生機関・地方自治体・

中央省庁・政府など）の協調と提携(パートナーシップ)を象徴しています。中央の太い幹は、その大同団結による希望のある、持続的な未来社会への道を意図しており、JCVNはその一端を担えればと願っています。

◎上原三知さん案

重松理事長の案を元に作成いただきました。
（本人コメント）BTCVのロゴのと比べると葉っぱの数が多くなるので、少し数を減らすことと松を非対称にしてみました。

●各地でのイベント・ボランティア情報

◇志賀島　コスモス畑の種まき

約3,000㎡の花畑をコスモスでいっぱいにします。種まきにご協力ください！

と　き　8月3日(土) 9時～11時
場　所　志賀島「金印しおかぜフラワー園」
（志賀島小学校南側）
申　込　グリーンシティ福岡事務局
TEL／FAX　092-215-3913
WEB申込　http://www.greencity-f.org
※NPO法人グリーンシティ福岡が実施運営に協力しています。

◇里山ミニワーク「炭焼き、枝打ち」

山村塾の行う1泊2日の合宿ボランティア。炭焼きをしながら山小屋に泊まり、翌日は広葉樹植林地で枝打ち・除伐作業を行います。

と　き　10/19（土）～20（日）
集　合　9:30 えがおの森（八女市黒木町）
申　込　山村塾事務局
TEL／FAX　0943-42-4300
メール　info@sansonjuku.com

◇笠原棚田米サポーター100人募集！

昨年の九州北部豪雨災害からの復興に取り組む、福岡県八女市黒木町笠原地区で、棚田を守る取り組みが始まります！災害により多くの棚田がダメージを受けています。農家がやる気を持って取り組むことが出来る仕組みを作り、棚田の風景を次世代へ引き継ぐため、皆様のご協力をお願いいたします。受付・会費納入は一年更新ですが、「5年間買うぞ！」の口約束をお願いします。
取り組みの様子は
http://kasaharice.exblog.jp/　でご覧下さい。

一　口　45,000円（棚田米60キロ／年）
半　口　30,000円（棚田米30キロ／年）
問合せ　山村塾事務局
TEL／FAX　0943-42-4300
メール　info@sansonjuku.com

●JCVNの仲間を広く募集しています！

あなたの支援が、「いつでも」「どこでも」「だれでも」できる環境保全活動をめざした団体のネットワークづくりの力になります。入会申込書をご送付いたしますので、事務局までお問い合わせください。

- 個人正会員（¥10,000／年）
- 個人賛助会員（¥5,000／一口以上）
- 団体正会員（¥20,000／年）
- 団体賛助会員（¥10,000／一口以上）

JCVN理事をはじめ、環境保全活動の専門家のノウハウが詰まった会報が、年に4回お手元に届きます！また、メーリングリストでもJCVNが開催・協力するイベント情報等を随時ご案内いたします。

活動への寄付も受け付けています。環境保全団体のネットワークづくり、リーダー育成支援のため、皆さまのご協力をお待ちしています！

［会費・寄付振込口座］
番号：０１７６０－９－１２２４０７
名称：日本環境保全ボランティアネットワーク

CONSERVATION VOLUNTEERS　６
■発行日：平成２５年７月２０日
■発行頻度：年４回
■発行：特定非営利活動法人日本環境保全ボランティアネットワーク（略称：ＪＣＶＮ）
■事務局：〒810-0022福岡市中央区薬院4-5-2-202
tel/fax: 092-215-3966
e-mail: jcvn@greencity-f.org